

家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについての基礎的な理解と、それらに係る技能	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これから的生活を展望して課題を解決する力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの分野においても自分の家庭のスタイルが当たり前と感じている部分がある。ア</li> <li>・自分の先の生活は、今の生活から変化していくものであり、それを自分で作っていくという認識はまだもっていない。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野ごとにクラスや班で他の人の話を聞く機会を作り、今の生活の仕方は、いろいろなスタイルがあるうちの一つであると理解していく。プライバシーに配慮する。ア</li> <li>・少し先の未来を想像する機会を設ける。イ</li> </ul>	通年	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活にもともと興味・関心があるかどうかで授業への向き合い方に差が出ていて、知識及び技能の習得に差が出ている。ア</li> <li>・自分に照らし合わせて考えたり、自分の考えをしっかりととめてながったりする生徒もいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する内容に興味・関心が抱けるように、授業の流れの計画や導入を丁寧に行う。ア</li> <li>・学習の中で、自分に当てはめて考える機会を作ったり、その声かけを意識的に行ったりする。振り返りでは、これから自分の自分を見据えた考えを記入するように指導する。イ</li> </ul>	通年	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標を途中で忘れ、作業する自体が目標になってしまふ生徒がいる。ア</li> <li>・思考することより、知識の習得を重視する生徒もいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何時間かにわたる作業の時も、毎回目標の確認を行う。ア</li> <li>・学習していることが自分の生活につながることだと感じられるよう、興味・関心をもてる授業内容と展開をしていく。イ</li> </ul>	通年 通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について

- ・被服製作時、自分の進度に合わせてロイロノートで説明を見て進められるようにしておき、主体的に製作に取り組むようにする。【重点：協働】
- ・ロイロノートの共有ノートを使用したり、アンケート機能を使ったりすることで、他の人の考えを効率的に知ることができるようにする。【重点：個別】
- ・被服製作や調理実習で、製作過程を動画や写真で記録して提出することにより、個別に評価し、次への学習に生かせるようにする。【重点：個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・単元の始まりには、その単元全体で学習することを説明し、自分の生活に関わることだと理解してから学習に入る。
- ・毎時間「学習の目標」を確認し、学習の終わりにそれに対する「振り返り」をする時間を設ける。
- ・複数の時間にまたがる実習は、自分で目標と計画を立てるようにし、それに対しての進度を振り返る時間を毎回設ける。
- ・実習は家でも作れる題材を選ぶ。